一般財団法人川村文化芸術振興財団

2022年度 ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成決定！

2022年度助成対象プロジェクト（全8つのプロジェクト）

助成額：40万円～30万円／1件　総額：300万円

- Ⓐ **NPO法人 マエバシ・アート・プラクティス**「見えない人たちのまち」
- Ⓑ **原田裕規**「ホワイト・アロハ（仮）」
- Ⓒ **Yuni Hong Charpe（ユニ・ホン・シャープ）**「アンコール」
- Ⓓ **表現の現場調査団**「表現の現場におけるハラスメント量的調査」
- Ⓔ **遠足プロジェクト実行委員会**「循環系コミュニティ立ち上げプロジェクト（仮題）」
- Ⓕ **片山真理**「ハイヒール・プロジェクト」
- Ⓖ **岩間香純**「闘う糸の会」
- Ⓗ **Elgueda Ward Studio（エルゲダ・ウォード・スタジオ）**「島のアトラス：私たちの言葉は故郷の未来」

（順不同）

一般財団法人川村文化芸術振興財団（理事長 川村喜久）では、日本初となるソーシャリー・エンゲイジド・アートに対する支援助成事業を2017年に開始。コミュニティや社会にコミットし、地域社会や住民とともに制作や活動を実施し、より良い社会モデルの提示や構築を目指す日本国内で実施されるソーシャリー・エンゲイジド・アートプロジェクトに対して助成しています。
5回目となる今回2022年度は公募と審査を経て、日本国内外から49件（海外9件、国内40件）の応募の中から8件のプロジェクトが決定しましたので、下記の通りご案内いたします。

2022年度は、前年度に引き続き「コロナ禍におけるソーシャリー・エンゲイジド・アートプロジェクト」をテーマとしたプロジェクトのアイディアを募集しました。選ばれたプロジェクトは、コロナ禍での活動を前提に計画され、コミュニティ、ジェンダー、ハラスメント、移民問題など、現代社会に目を向けテーマ設定された多様な8つのプロジェクトが採択されました。2022年度は助成対象の当該プロジェクトを実施するためのプロトタイプ（事前ワークショップ、試作、レクチャー、映像等）を令和4年度に発表していただきます。

見えない人たちのまち｜NPO法人 マエバシ・アート・プラクティス

研修という名目で一時的な労働力としてこの社会に移住してきた人たちの厳しい現実は、コロナ禍にあって一層厳しい。街の中でそれを実感することはあまりない。本プロジェクトは、作られた現実の危うさ等をテーマにアジアを中心にリサーチしてきた経験を持つアーティストの柴田祐輔と移民たちの豊かな創造力によって、この街の作られた「見えないもの」を「見えるもの」へと転換し、人々の認識を変えていこうとするものである。

NPO法人 マエバシ・アート・プラクティス：
前橋に拠点を置くアーティストやコーディネーターにより2015年に設立。「map前橋“市民”ギャラリー」の運営、アーツ前橋滞在制作事業におけるアーティストのコーディネートなど、幅広く地域の人々の表現活動を支援する。
https://maebashiartpractice.wordpress.com

ホワイト・アロハ（仮）｜原田裕規

国家（空間）と世代（時間）を越えるトランスナショナルな人間の生理と感性を探るプロジェクト。具体的には、ハワイの日系コミュニティで伝わる民間伝承（怪談）や食文化などを取り上げる。2019年から2021年にかけて、複数回にわたりハワイでリサーチを実施しており、2022年には、全国的にもハワイとゆかりの深い土地である広島でのリサーチも実施する。そのうえで映像として成果を集約させ、広島市内で上映会を実施する。

原田裕規：
アーティスト。1989年生まれ。社会のなかで広く認知されている視覚文化をモチーフに、人間の身体・認知・感情的な限界に挑みながら、現代における「風景」が立ち上がるビューポイントを模索している。東京藝術大学大学院修了。
https://www.haradayuki.com/

アンコール｜Yuni Hong Charpe（ユニ・ホン・シャープ）

朝鮮半島出身の舞踊家・崔承喜をめぐり、在日朝鮮舞踊家と通訳者をコラボレーターとして迎えながら、レクチャーパフォーマンスを制作する。同時に在日外国人の方々を交えたワークショップを開催し、関連した内容の映像制作も行う。制作プロセスでは崔の複雑なアイデンティティのあり方を検証し、歴史を異なったやり方で「再演」することで、現代の私たちのアイデンティティやコロナ禍で顕在化した在日外国人問題を再考する。

Yuni Hong Charpe（ユニ・ホン・シャープ）：
アーティスト。パリと東京の2拠点で活動。作品は多くの場合、場所の歴史や個人的な記憶についての考察から始まり、規範化した属性より構築されたアイデンティティへの疑問から、その多重性と不安定性を探求する。
https://www.yunihong.net

表現の現場における
ハラスメント量的調査

表現の現場におけるハラスメント量的調査｜表現の現場調査団

表現の現場調査団は2020年の発足以来、専門家の助言のもと、ハラスメントの実態およびジェンダーバランスについてメンバーおよび協力者が分担してデータを収集、調査を実施した。本プロジェクトでは、これまでの調査を補完するために、ハラスメントについての量的調査を専門機関に依頼して実施し、客観的な統計データを収集することで、今後、具体的な提言の作成へと繋げていくことを可能にする。

表現の現場調査団：
2020年11月、表現に携わる有志により設立。表現の現場におけるさまざまな不平等を解消し、ハラスメントのない真に自由な表現の場を目指すべく、5年間継続して調査活動及び社会改善の取り組みを行っている。
https://www.hyogen-genba.com/

表現の現場
調査団
https://www.hyogen-genba.com/

循環系コミュニティ立ち上げプロジェクト（仮題）｜遠足プロジェクト実行委員会

過去10年間で被災地と未災地の境界を超えた遠足プロジェクトの継続で培われた国際ネットワークを宮城県石巻市の地域社会へSEAの実践を通じて還元し、地域社会と有機的に協働する「循環系コミュニティ」を整備する。

遠足プロジェクト実行委員会：
東日本大震災の支援物資であったランドセルを世界中のアーティストが作品化し、巡回を通じて参加者と「共に背負い」、当事者として自分たちの言葉で語り合うことで震災伝承していくプロジェクト。
http://asia.fieldtrip.info/

ハイヒール・プロジェクト｜片山真理

ハイヒールが特別なものではない、ただの、あなたにとって大切な、選択の一つになってほしい。義足で生活する作家にとって、「たくさんあるうちのひとつ」ではなく「夢」のようなものだった「ハイヒールを履く」という行為から、全ての人にとっての「選択の自由」を社会に問う。開始から10年を経たプロジェクトを、様々な他者とつながりながら次のフェイズに進め、全ての人の「理想を抱く自由」に向けて動き出す。

片山真理：
自らの身体を模した手縫いのオブジェ、ペインティング、コラージュ、それらを用いて細部まで演出を施したセルフポートレイト等を制作。作品制作に留まらず、歌手、モデル、講演、執筆など、幅広く活動している。
https://shell-kashime.com/

闘う糸の会｜岩間香純

「共同性」「工程」「手芸」「ジェンダー暴力」を軸にコレクティブとして活動する本作品では、リサーチとワークショップを重ね、一般参加者と共に運動を象徴するバンダナ制作を行い、反ジェンダー暴力の意識や運動を高めることを目的とする。本作品はラテンアメリカのフェミニズム運動に感化されてされており、南米のフェミニストアーティストと協働することでトランスナショナルな繋がりと可能性に期待を寄せている。

岩間香純：
アーティスト、日英西翻訳家。日米の間で育った二文化から生まれるハイブリッドな視点でフェミニズムやアイデンティティなどのテーマを基に制作。2017年よりエクアドルのキト在住。
twitter.com/tatakauitonokai　instagram.com/tatakauitonokai

島のアトラス：私たちの言葉は故郷の未来｜Elgueda Ward Studio（エルゲダ・ウォード・スタジオ）

島民の「故郷」との精神的なつながりは、個人の存在意識の根幹に深く結びついている。当プロジェクトでは、同じ姫島出身でありながら互いに違う環境を選択した参加者たちがリモートで対話し、「空想と現実」という対比を超えて自ら浮かび上がってきたイメージを地図に表現する。描かれた地図は、アトラスとして島の未来に関する命題の体系となり、自己やコミュニティー全体の意識について理解を深めることを志向している。

Elgueda Ward Studio（エルゲダ・ウォード・スタジオ）：
エルゲダ・ヒメナ（チリ出身）とウォード・スティーブン（アメリカ出身）は、2000年から様々なパブリックアートのプロジェクトに取り組んできた。ジャンルにとらわれない芸術活動をしている。
https://www.elguedaward.com

◎審査員

工藤安代（NPO法人ART&SOCIETY研究センター 代表理事）
近藤健一（森美術館シニアキュレーター）
清水知子（筑波大学人文社会系准教授）
相馬千秋（NPO法人芸術公社代表理事、アートプロデューサー）
藤井光（アーティスト）

◎2022年度助成贈呈式を開催

助成団体8団体による、採択プロジェクトのプレゼンテーション、審査員による所感・コメントも発表されます。

日　程：2022年3月24日（木）15:00-17:00
場　所：アーツ千代田 3331
　　東京都千代田区外神田6-11-14
参加者：助成受賞団体（オンライン参加含む）、審査員
　　当財団理事長及び理事

プレス限定：贈呈式への取材を希望される方は、当財団までお申し込みください。

一般財団法人川村文化芸術振興財団 ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成について

一般財団法人川村文化芸術振興財団は、文化芸術により人々の創造性や表現力を育み、よりよき社会の構築を目指すために2017年2月15日に設立されました。当財団は優れた能力を有する芸術家に対し活動を支援し、これまで培われてきた文化芸術を継承、発展させ、独創性のある革新的な文化芸術の創造を促進することを目指します。本助成事業はコミュニティや社会にコミットし、地域社会や住民とともに制作や活動を実施し、より良い社会モデルの提示や構築を目指す国内のソーシャリー・エンゲイジド・アートのプロジェクトに対して、毎年採択しています。助成対象は門戸を広げて年齢・国籍不問とし、海外からの応募も積極的に受け付けています。

本事業および取材・掲載のお問い合わせ

一般財団法人川村文化芸術振興財団
ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成
東京都千代田区外神田2-15-2
Tel：03-5295-2120
Fax：03-3526-2292
E-mail：info@kacf.jp
公式ウェブサイト　http://www.kacf.jp/